

# 治安等に関するアンケート結果 (第14回：平成30年3月実施)

- テーマ  
「治安等に関するアンケート」
- アンケートの目的  
県民の皆様の治安等に関する御意見を伺い、安全に安心して暮らせる鹿児島を創造するための警察活動に役立てるため。
- 実施時期  
平成30年3月
- 対象者数  
200人
- 回答者数  
148人(74.0%)

平成30年6月

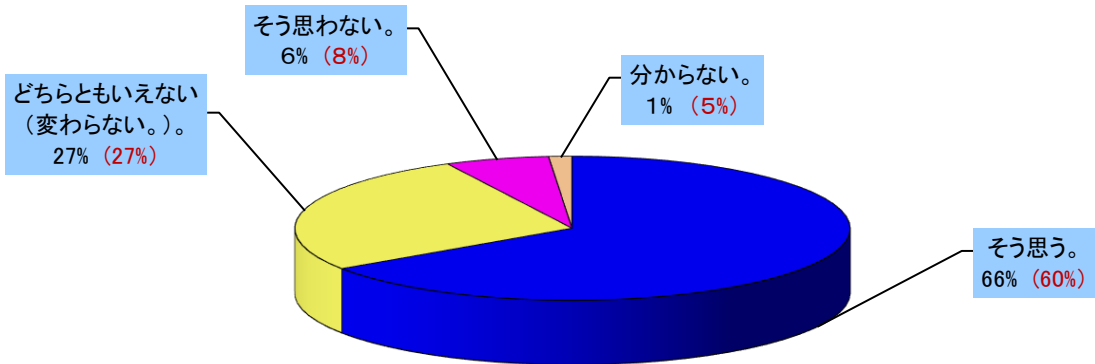
鹿児島県警察本部



# 1 鹿児島県の治安について

※( )は、前回アンケート結果(平成29年1月実施)

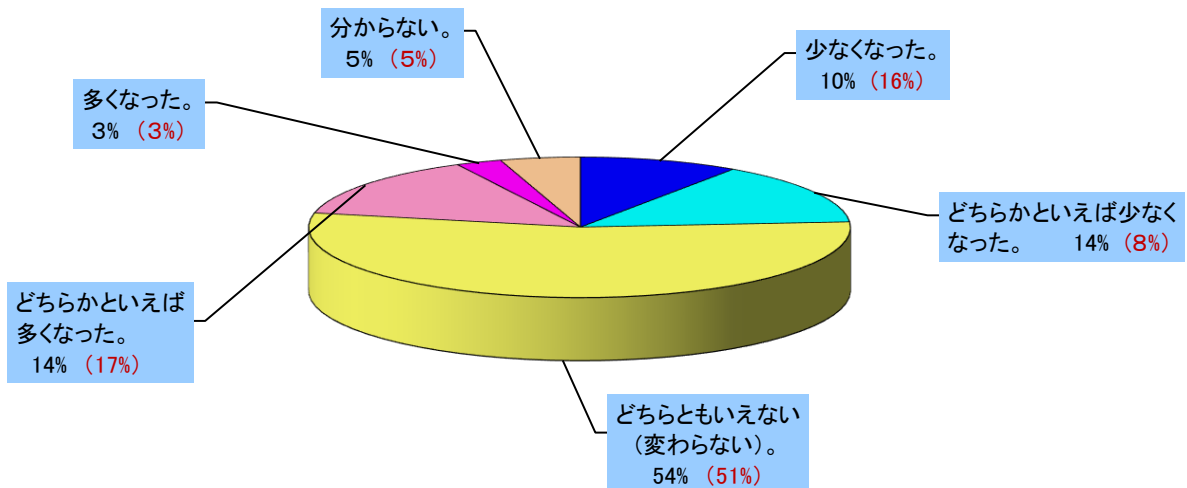
問1 あなたは、現在の鹿児島県が治安が良く、安全で安心して暮らせる県であると思いますか。



「現在の鹿児島県が治安が良く、安全で安心して暮らせる県であると思う。」と回答した方は66パーセントであり、前回の調査時より6ポイント増加し、8年連続で半数を超えた。また「どちらともいえない(変わらない。)」と回答した方は27パーセントであり、前回の調査と同一であった。

一方、「そう思わない。」と回答した方は6パーセントと前回の調査時より2ポイント減少した。

問2 あなたのお住まいの地域で、ここ1年間で、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になることが少なくなったと思いますか、それとも多くなったと思いますか。



「あなたのお住まいの地域で、ここ1年間で、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になること」について、「少なくなった。」又は「どちらかといえば少なくなった。」と回答した方は24パーセントであり、前回の調査時と同一であった。

また、「多くなった。」又は「どちらかといえば多くなった。」と回答した方は17パーセントであり、前回の調査時より3ポイント減少した。

更問① 不安になることが少なくなった原因は何だと思えますか。(複数回答可)  
 ～ 問2で「少なくなった。」又は「どちらかといえば少なくなった。」と回答した方への再質問

地域社会の連帯意識が高まってきている。

住民の規範意識が向上してきている。

青少年の教育がしっかりとしてきている。

景気が少し良くなってきている。

犯罪の発生件数が減少してきている。

警察の取締りが強化されてきている。

交番での警戒やパトロールをする制服警察官を以前より見かける。

犯罪に対する刑罰が厳しくなっている。

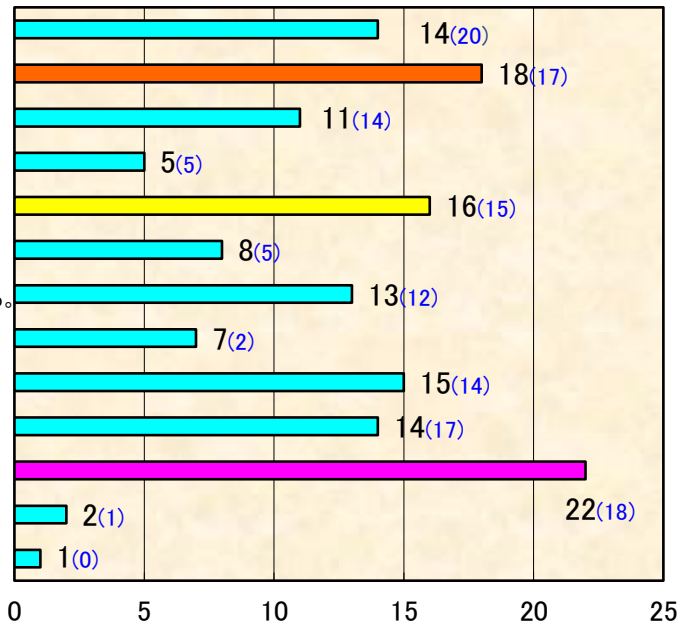
「安全・安心まちづくり」に関する条例が多くの自治体で制定されるなど、行政（県・市町村）が安全・安心に関して積極的に取り組むようになってきている。

地域住民等による防犯ボランティア団体の取組が活発になってきている。

子供の声掛け事案の発生状況など、地域に身近な犯罪等に関する情報が提供されるようになってきている。

その他

分からない。



「ここ1年間で犯罪に遭うかもしれないと不安になること」について「少なくなった。」又は「どちらかといえば少なくなった。」と回答した方に対して、その理由を質問したところ、「子供の声掛け事案の発生状況など、地域に身近な犯罪等に関する情報が提供されるようになってきている。」、「住民の規範意識が向上してきている。」、「犯罪の発生件数が減少してきている。」、「「安全・安心まちづくり」に関する条例が多くの自治体で制定されるなど、行政（県・市町村）が安全・安心に関して積極的に取り組むようになってきている。」の順に回答が多い。

更問② 不安になることが多くなった原因は何だと思えますか。(複数回答可)  
 ～ 問2で「どちらかといえば多くなった。」又は「多くなった。」と回答した方への再質問

地域社会の連帯意識が希薄となった。

住民の規範意識が低下している。

青少年の教育が不十分である。

様々な情報が氾濫し、それが容易に手に入る。

景気が悪くなった。

外国人犯罪が増えた。

犯罪が広域化している。

暴力団や窃盗団などの組織犯罪が発生している。

全国的に凶悪犯罪が報道され、身近でも発生する可能性がある。

風俗環境が悪化している。

現実に身近で犯罪が発生している。

警察の取締りが不十分である。

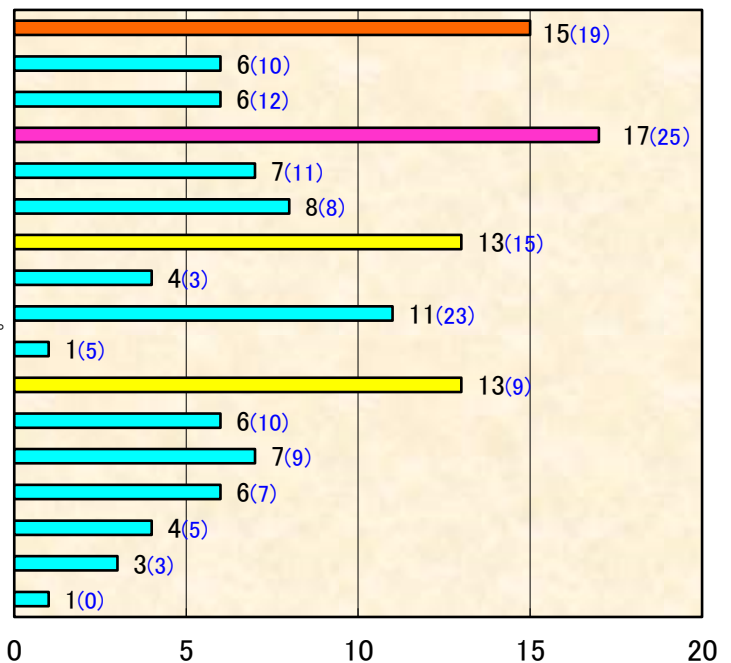
交番での警戒やパトロールをする制服警察官が少ない。

犯罪に対する刑罰が軽い。

行政（県や市町村）の取組が不十分である。

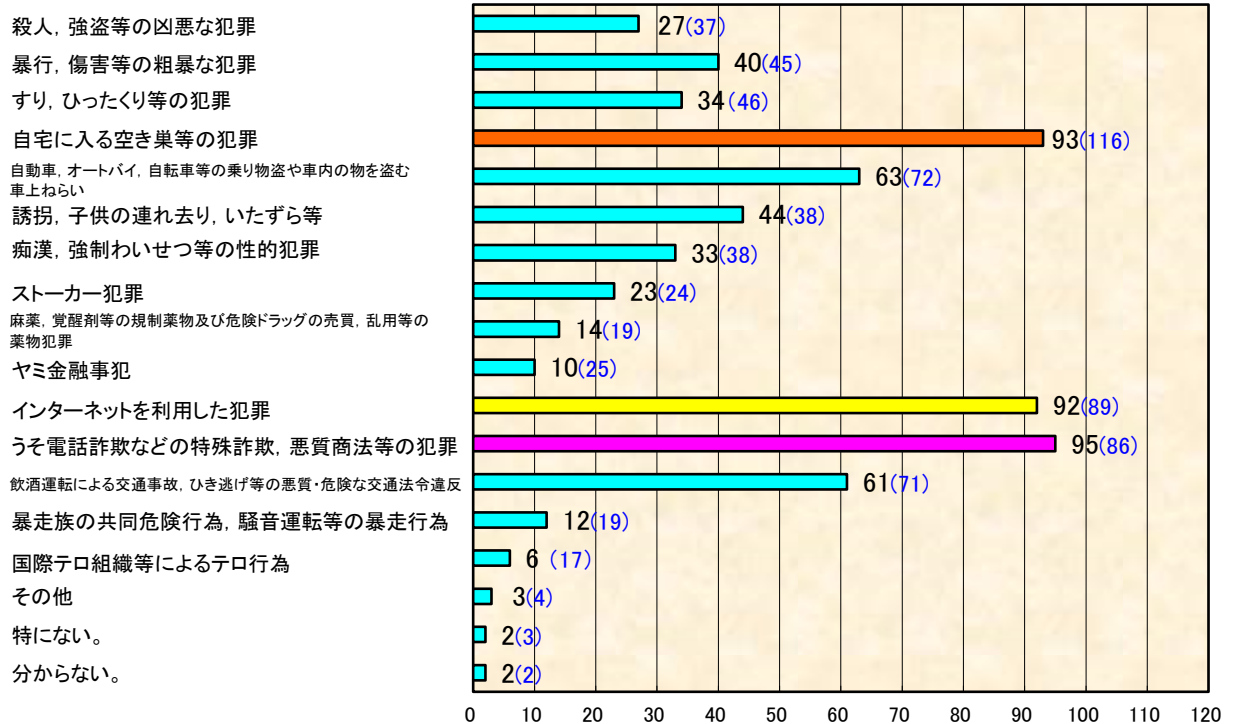
その他

分からない。



「ここ1年間で犯罪に遭うかもしれないと不安になること」について「どちらかといえば多くなった。」又は「多くなった。」と回答した方に対して、その理由を質問したところ、「様々な情報が氾濫し、それが容易に手に入る。」が最多で、次いで「地域社会の連帯意識が希薄となった。」、「犯罪が広域化している。」、「現実に身近で犯罪が発生している。」の回答が多い。

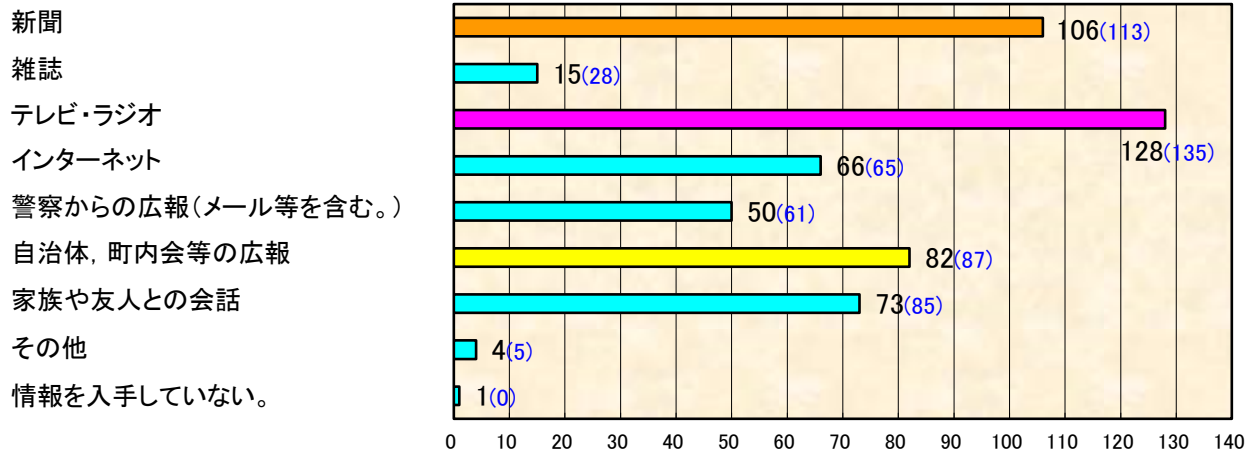
問3 あなたが、自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる犯罪は何ですか。



自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる犯罪について、「うそ電話詐欺などの特殊詐欺、悪質商法等の犯罪」、「自宅に入る空き巣等の犯罪」、「インターネットを利用した犯罪」等と回答している。

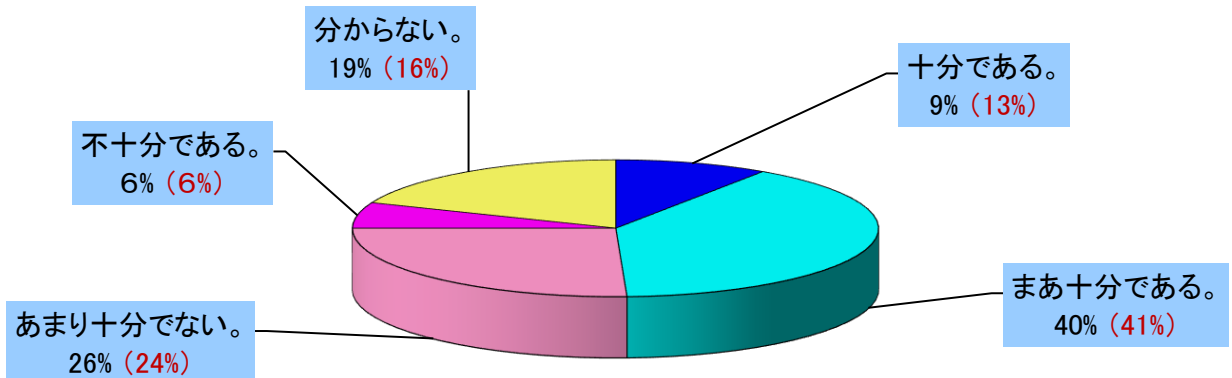
## 2 治安や犯罪に関する情報について

問4 あなたは、どのような方法で治安や犯罪に関する情報を入手していますか。  
(複数回答可)



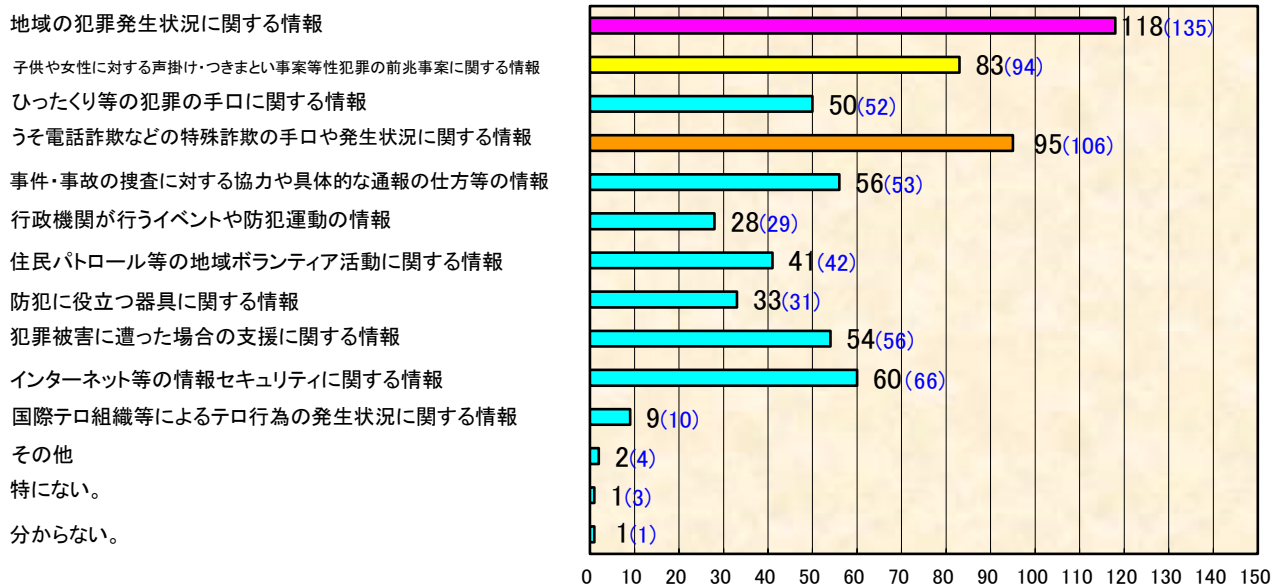
治安や犯罪に関する情報の入手方法については、「テレビ・ラジオ」, 「新聞」によると回答した方が多い。

問5 あなたは、警察及び自治体からの治安や犯罪に関する情報提供は十分であると思いますか。



警察や自治体からの治安情報等の提供について、「十分である」又は「まあ十分である。」と回答した方は49パーセントで、前回の調査時より5ポイント減少した。また「不十分である。」又は「あまり十分でない。」と回答した方は32パーセントで、前回の調査時より2ポイント増加している。

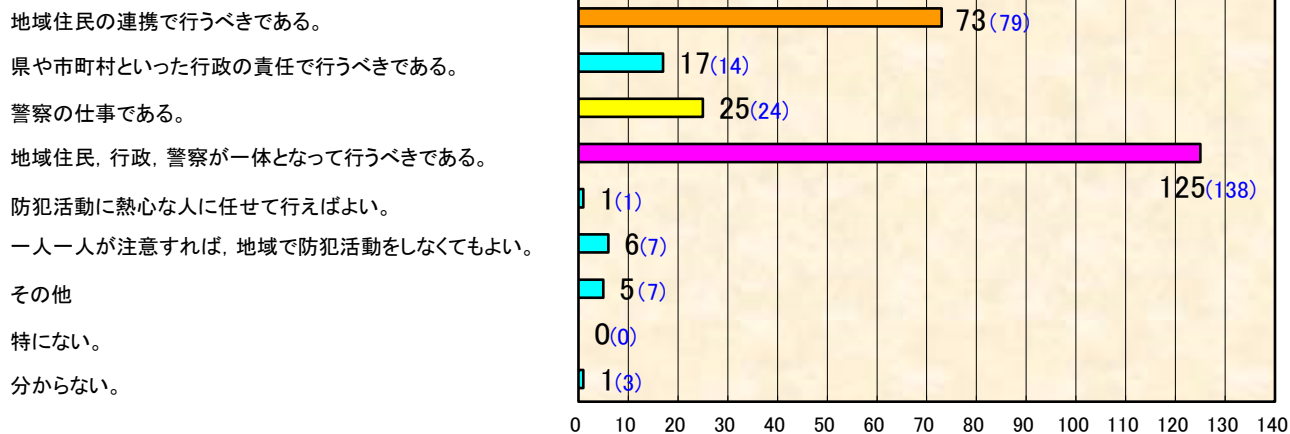
問6 あなたは、治安や犯罪に関する情報として、警察からどのようなものが提供されたら良いと思いますか。(複数回答可)



県民が警察や自治体に提供を求める情報については、「地域の犯罪発生状況に関する情報」という回答が最も多く、次いで「うそ電話詐欺などの特殊詐欺の手口や犯罪発生状況に関する情報」、 「子供や女性に対する声掛け・つきまとい事案等性犯罪の前兆事案に関する情報」の順となっている。

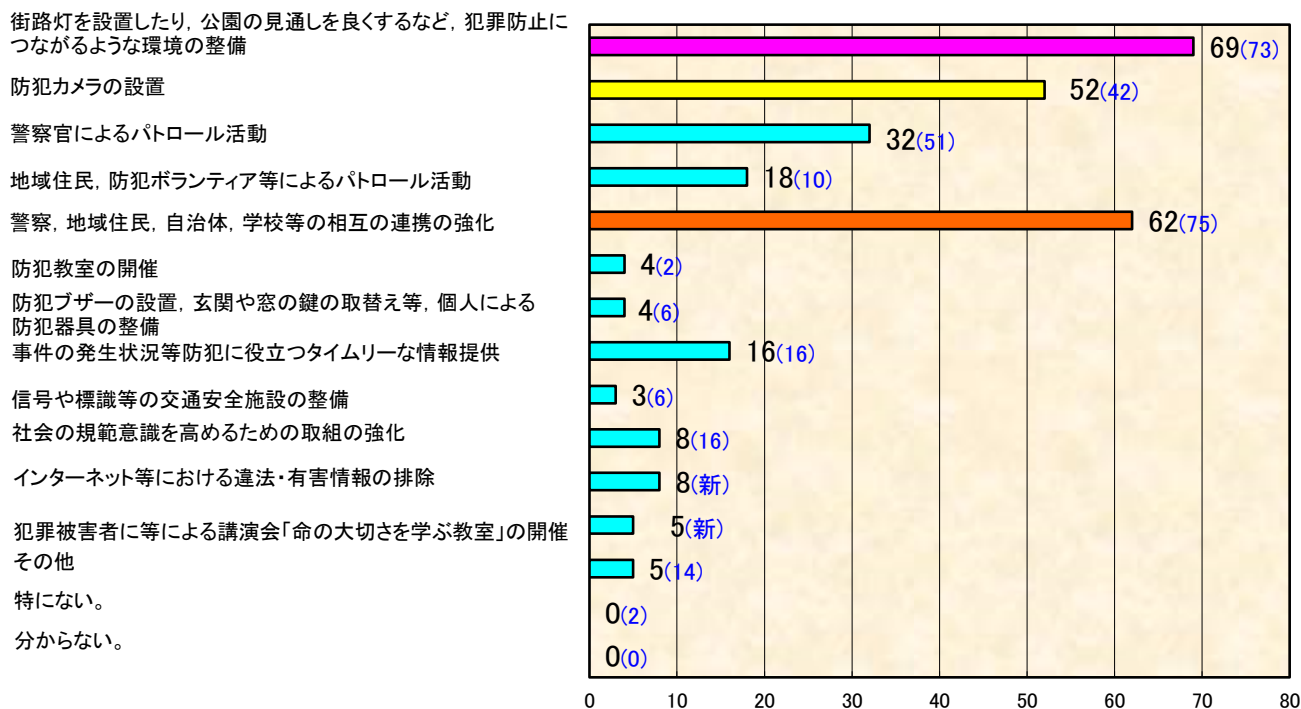
### 3 犯罪の起きにくい社会づくりについて

問7 犯罪の起きにくい社会づくりを行うために、あなたの考え方に近いものはどれですか。  
(二つまで回答可)



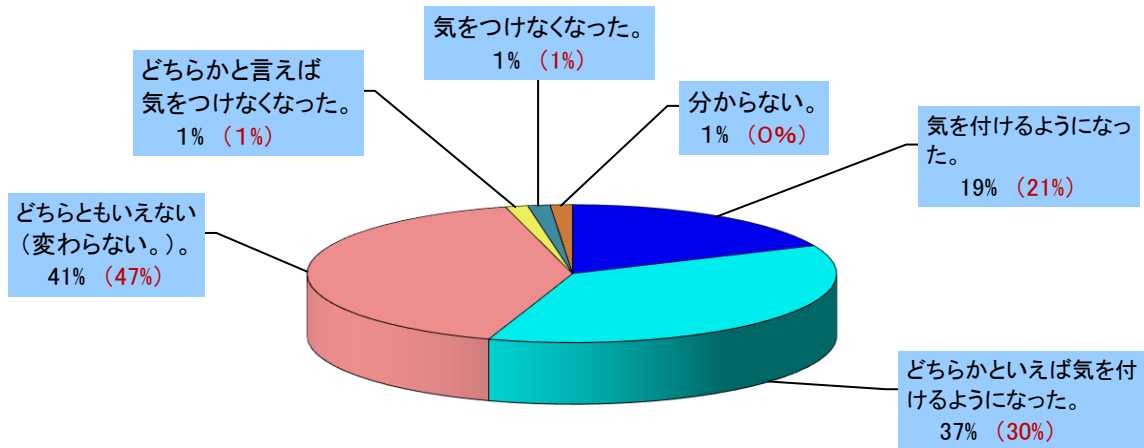
大半の方が「地域住民、行政、警察が一体となって行うべきである。」、「地域住民の連携で行うべきである。」と回答している。

問8 犯罪の起きにくい社会づくりを実現するためには、どのような取組が必要であると思いますか。(二つまで回答可)



大半の方が「街路灯を設置したり、公園の見通しを良くするなど、犯罪防止につながるような環境の整備」、「警察、地域住民、自治体、学校等の相互の連携の強化」、「防犯カメラの設置」と回答している。

問9 あなたは、ここ1年間で「防犯」ということに気を付けるようになりましたか。

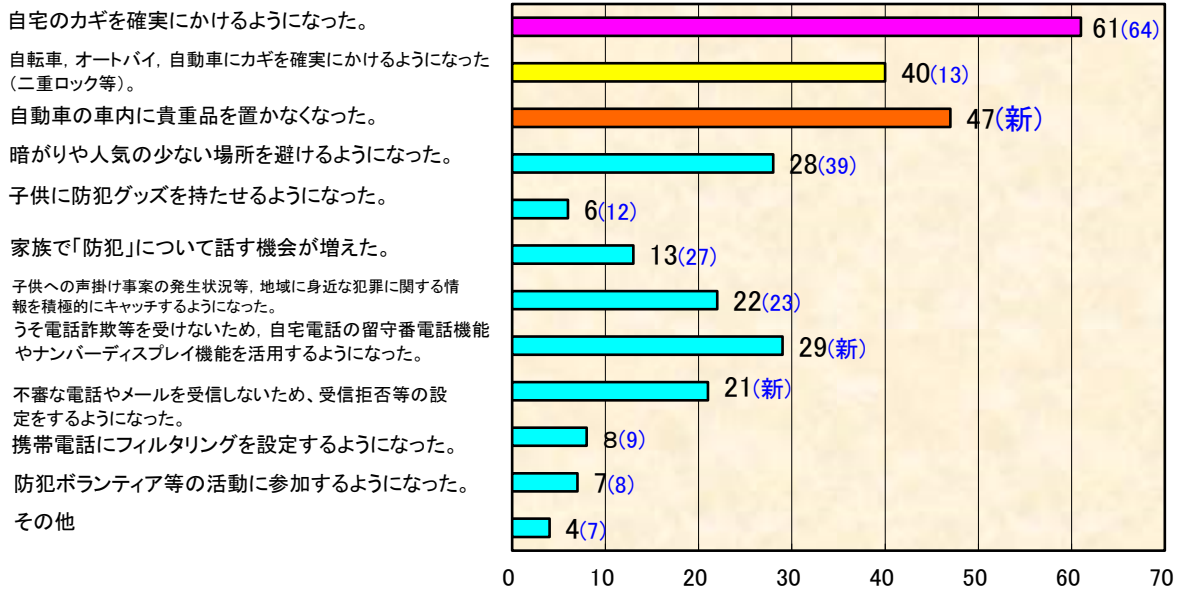


56パーセントの方が、ここ1年間で防犯ということに「気を付けるようになった。」又は「どちらかといえば気を付けるようになった。」と回答しており、前回調査時より5ポイント増加している。

更問① どのような点に気を付けるようになりましたか。(複数回答可)

～ 問9で「気を付けるようになった。」又は「どちらかといえば気を付けるようになった。」と

回答

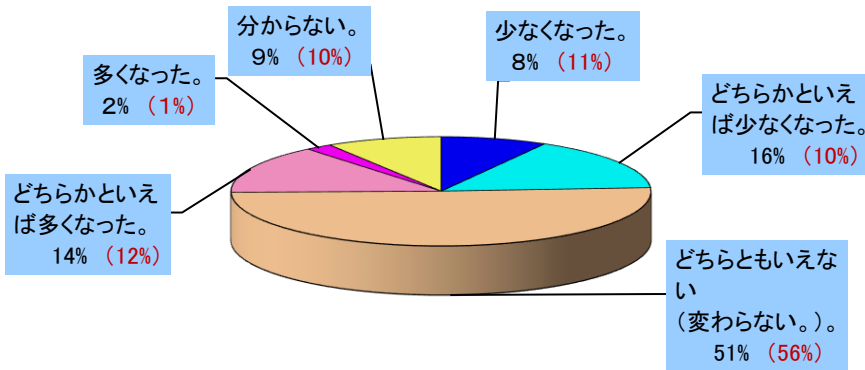


「自宅のカギを確実にかけるようになった。」，「自動車の車内に貴重品を置かなくなった。」，「自転車、オートバイ、自動車に確実にカギを確実にかけるようになった(二重ロック等)。」等の回答が多い。



## 4 子供の安全対策について

問10 ここ1年間で、あなたのお住まいの地域の子供たちが、犯罪被害に遭うかもしれないと不安になることが少なくなったと思いますか、それとも多くなったと思いますか。



「ここ1年間で、あなたのお住まいの地域の子供たちが、犯罪被害に遭うかもしれないと不安になること」について、「少なくなった。」又は「どちらかといえば少なくなった。」と回答した方は24パーセントと、前回の調査時より3ポイント増加し、「多くなった。」又は「どちらかといえば多くなった。」と回答した方は16パーセントと、前回より3ポイント増加した。

更問① 少なくなった原因は何だと思いますか。(複数回答可)

～ 問10で「少なくなった。」又は「どちらかといえば少なくなった。」と回答した方への再質問

登下校時間帯に青色防犯パトロール活動等が活発に行われている。

地域の子供の安全に対する意識が高まりつつある。

子供の安全に対する学校や自治体の取組が活発になってきている。

子供の登下校時間帯の、警察官や交番相談員による通学路のパトロールが強化されている。  
学校や地域で、子供の安全対策に関する防犯教室が開かれている。

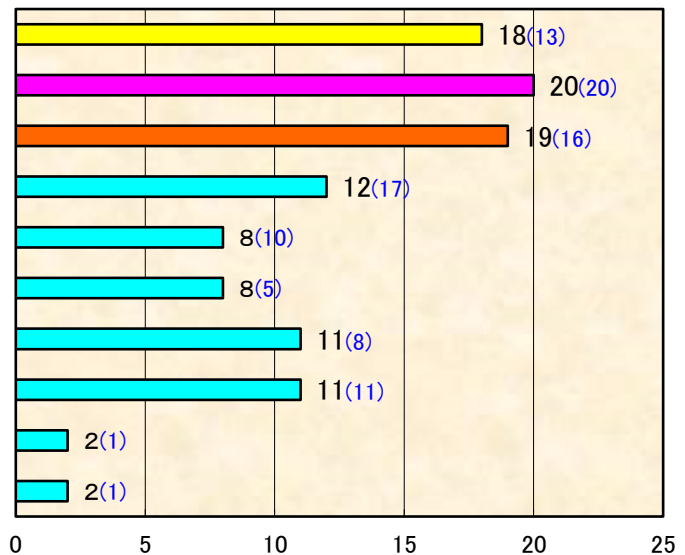
警察から、不審者情報等がタイムリーに提供されている。

スクールサポーターの配置や地域安全マップの作成等子供の安全対策が進んでいる。

子供たち自身の安全に対する意識が高まってきている。

その他

分からない。



更問② 多くなった原因は何だと思いますか。(複数回答可)

～ 問10で「多くなった。」又は「どちらかといえば多くなった。」と回答した方への再質問

テレビや新聞で、子供が巻き込まれる事件がよく取り上げられる。

地域のつながりが弱く、近所の住民の顔をよく知らない。

子供が習い事などで遅く帰ることがある。

子供が一人で登下校することがある。

近所で子供が巻き込まれた事件・事故が発生したから。

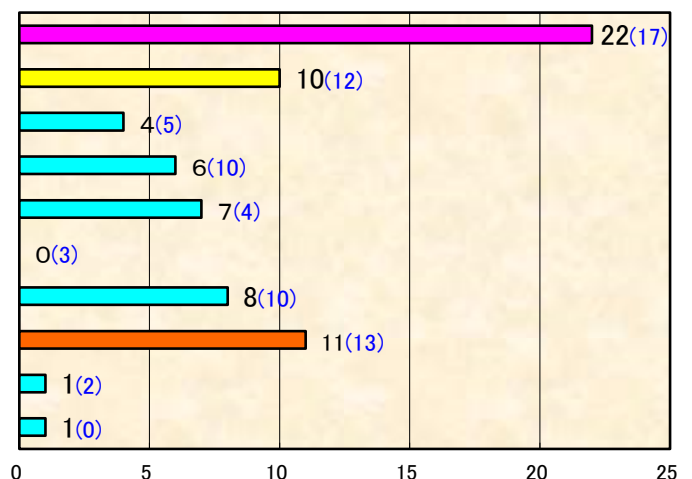
学校や地域で子供の安全対策に関する防犯教室がほとんど開かれていない。

登下校時間帯に警察官がパトロールしている姿を見かけない。

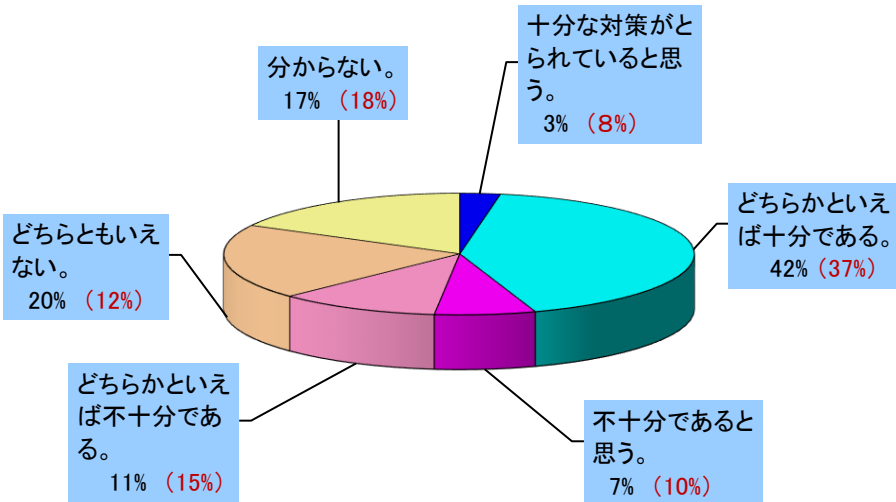
子供がインターネット等を利用する機会が増えたから。

その他

分からない。



問11 あなたは、子供の安全対策についてどう思いますか。

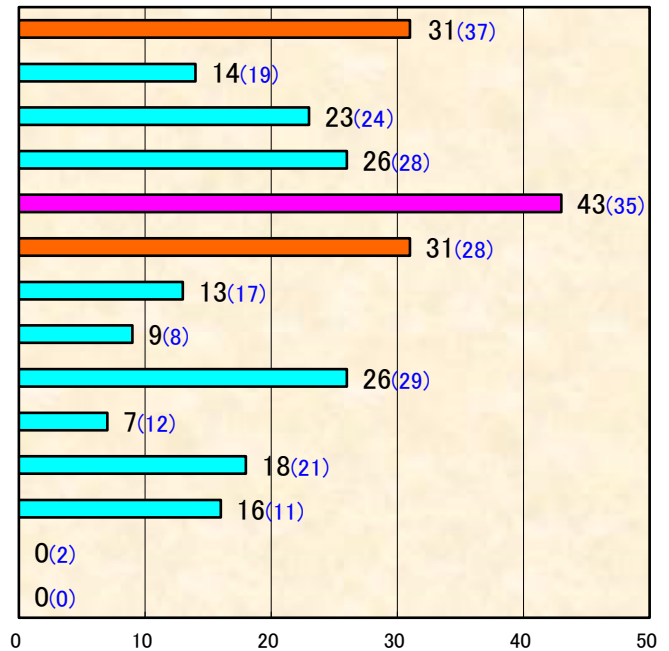


子どもの安全対策について、「十分な対策がとられていると思う。」又は「どちらかといえば十分である。」と回答した方が、45パーセントであり、前回の調査と同一であり、「不十分である。」又は「どちらかといえば不十分である。」と回答した方は18パーセントであり、前回の調査時よりも7ポイント減少している。

更問① 子供の安全対策には何が必要だと思われますか。(複数回答可)

～問11で「不十分であると思う。」「どちらかといえば不十分である。」「どちらともいえない。」と

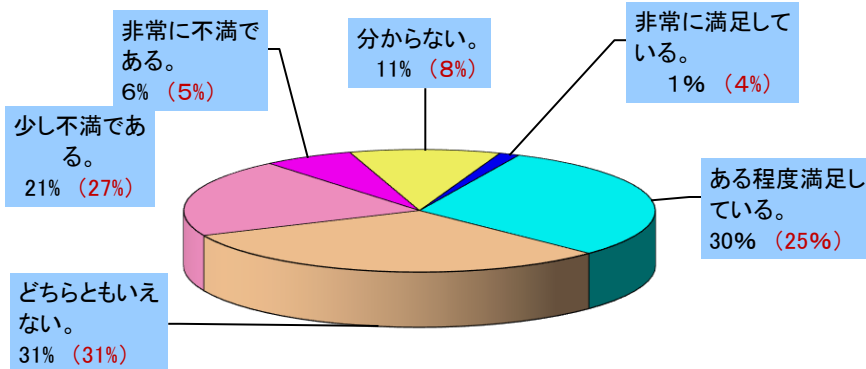
- 警察官等による通学路や学校周辺のパトロール活動の強化
- スクールサポーターの増員配置
- 保護者や防犯ボランティア団体等によるパトロールの実施
- 地域の犯罪発生状況や不審者情報等の提供
- 日頃からの地域とのつながり(地域社会の連帯)の強化
- 家庭や学校における防犯についての指導や教育
- 子供に防犯ブザーや携帯電話等を持たせる。
- 保護者による学校や学習塾への送迎
- 通学路等街頭への防犯カメラの設置
- 地域安全マップの作成と有効活用
- 子供110番の家への駆け込み訓練等各種訓練の実施
- 子供の使用する携帯電話等にフィルタリングを設定する。
- その他
- 分からない。



多くの方が、「日頃からの地域とのつながり(地域社会の連帯)の強化」、「警察官等による通学路や学校周辺のパトロール活動の強化」、「家庭や学校における防犯についての指導や教育」が必要であると回答している。

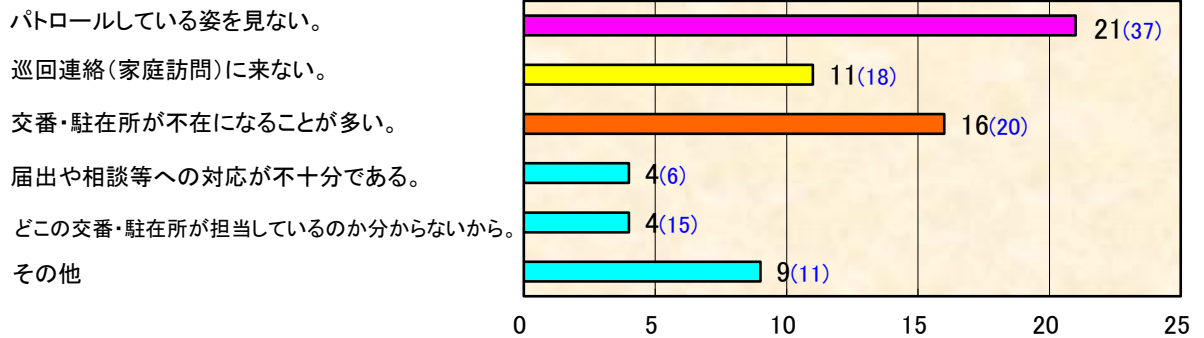
## 5 交番・駐在所の活動について

問12 あなたは、近くの交番・駐在所の警察官の活動について、満足していますか。



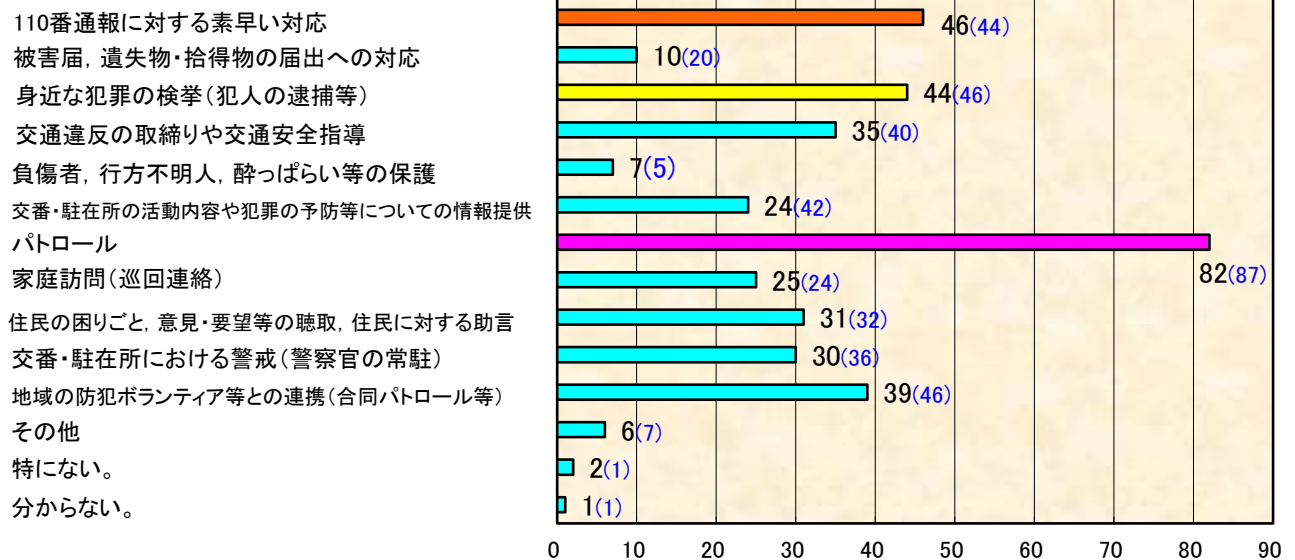
近くの交番・駐在所の警察官の活動について、「非常に満足している。」又は「ある程度満足している。」と回答した方が31パーセントで、前回の調査時より2ポイント増加し、「少し不満である。」又は「非常に不満である。」と回答した方は、27パーセントで、前回の調査時より5ポイント減少している。

更問① 不満である理由は何ですか。(複数回答可)



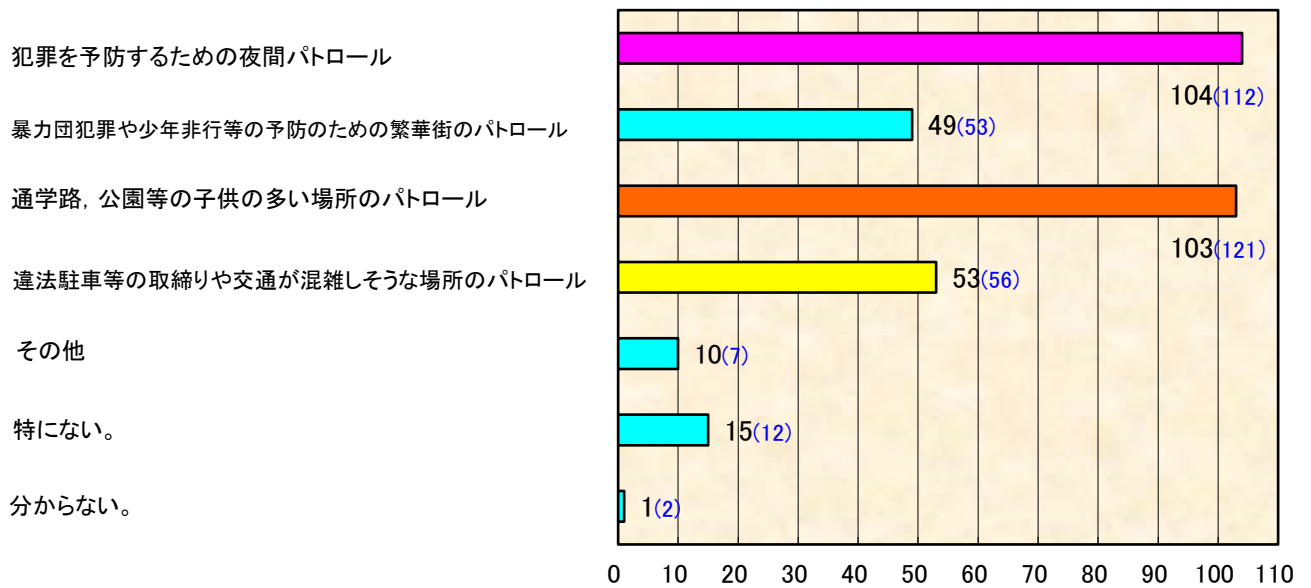
警察官の活動に対して不満を感じる理由については、「パトロールしている姿を見ない。」という回答が最も多い。

問13 あなたは、今後、交番・駐在所の警察官にどのような活動を特に強化してほしいと思いますか。(三つまで回答可)



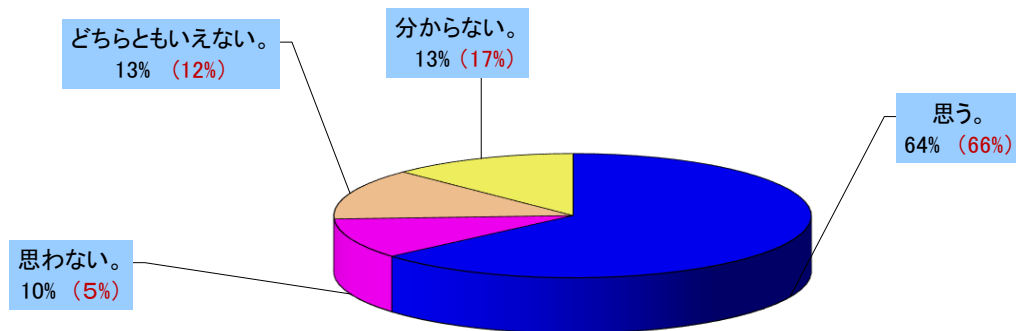
警察官に特に強化してほしい活動については「パトロール」という回答が最も多い。

問14 あなたは、警察官がパトロールを行う際、どのような時間帯や場所を重点的に行えばよいと思いますか。(複数回答可)



警察官がパトロールを行う際の時間帯や場所について、多くの方が「犯罪を予防するための夜間パトロール」、「通学路、公園等の子供の多い場所のパトロール」と回答している。

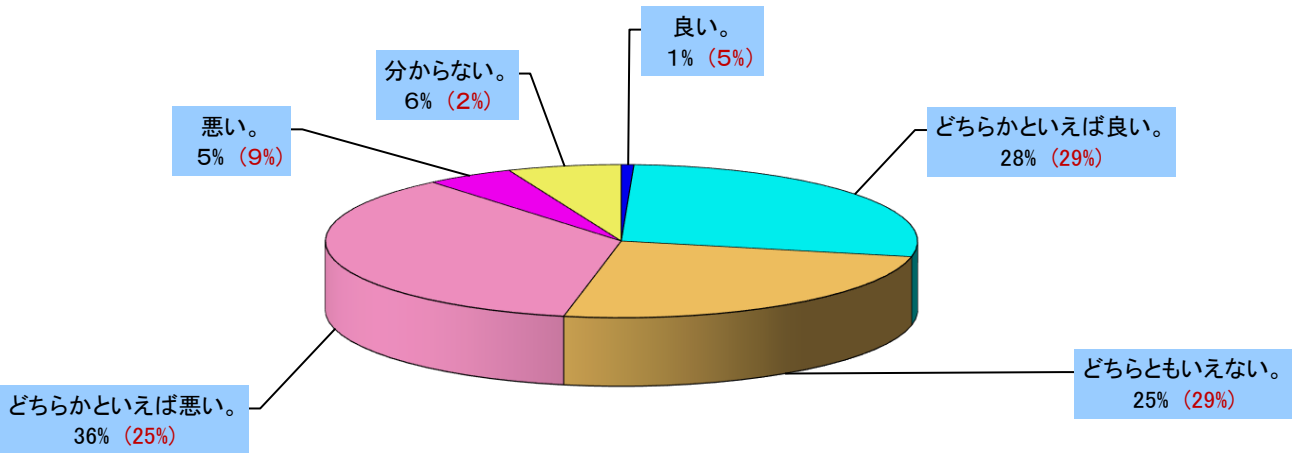
問15 警察官がパトロールなどで交番にいないときでも、交番を訪れた住民に対応することができるように交番相談員を交番に配置しています。あなたは、交番相談員が交番にいることは住民へのサービスにつながっていると思いますか。



6割以上の方が「交番相談員の配置が住民へのサービスにつながっていると思う。」と回答している。

## 6 交通事故抑止対策について

問16 あなたは、鹿児島県内の交通マナーについてどのように感じていますか。

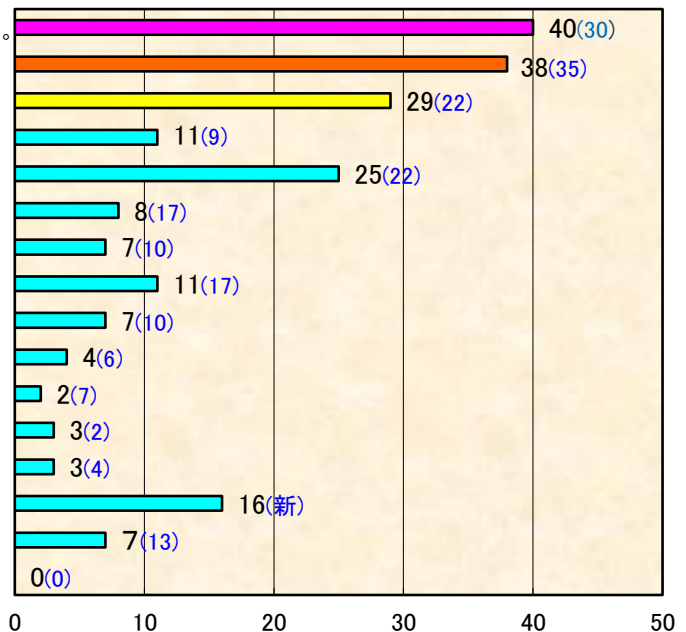


鹿児島県内の交通マナーについて、29パーセントの方が「良い。」又は「どちらかといえば良い。」と回答しており、41パーセントの方が「悪い。」又は「どちらかといえば悪い。」と回答している。

### 更問① そのように感じる理由は何ですか(複数回答可)

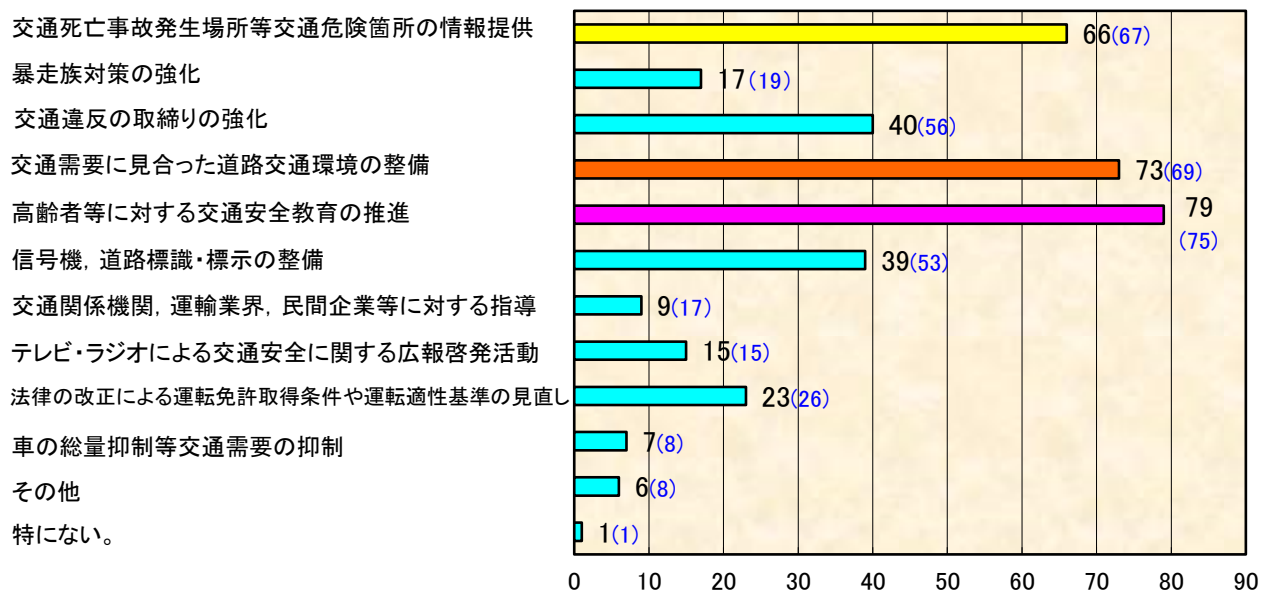
～ 問16で「どちらかといえば悪い。」又は「悪い。」と回答した方への再質問

- 携帯電話を使用したり、テレビを見ながら運転する自動車が多い。
- 右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多い。
- 横断歩道以外の場所や歩行者横断禁止の場所で道路を横断する人が多い。
- 自動車の信号無視が多い。
- 携帯電話を使用したり、ヘッドホン、イヤホン等を使いながら運転する自転車乗りが多い。
- 自動車のスピード違反が多い。
- 駐車違反が多い。
- 交差点や横断歩道で歩行者の横断を妨害する(停止しない)自動車が多い。
- 歩行者の通行を妨害する(並進運転、道を譲らない、スピードが速い)自転車乗りが多い。
- 自転車の信号無視が多い。
- 歩行者の信号無視が多い。
- シートベルトをしなくて運転する自動車が多い。
- 暴走族が多い。
- あおり運転を受けたことがあるから。
- その他
- 分からない。



鹿児島県内の交通マナーについて「悪い。」又は「どちらかといえば悪い。」と回答した方について、その理由を質問したところ、多くの方が「携帯電話を使用したり、テレビを見ながら運転する自動車が多い」、「右左折の合図をしなかったり、合図が遅い自動車が多い。」と回答している。

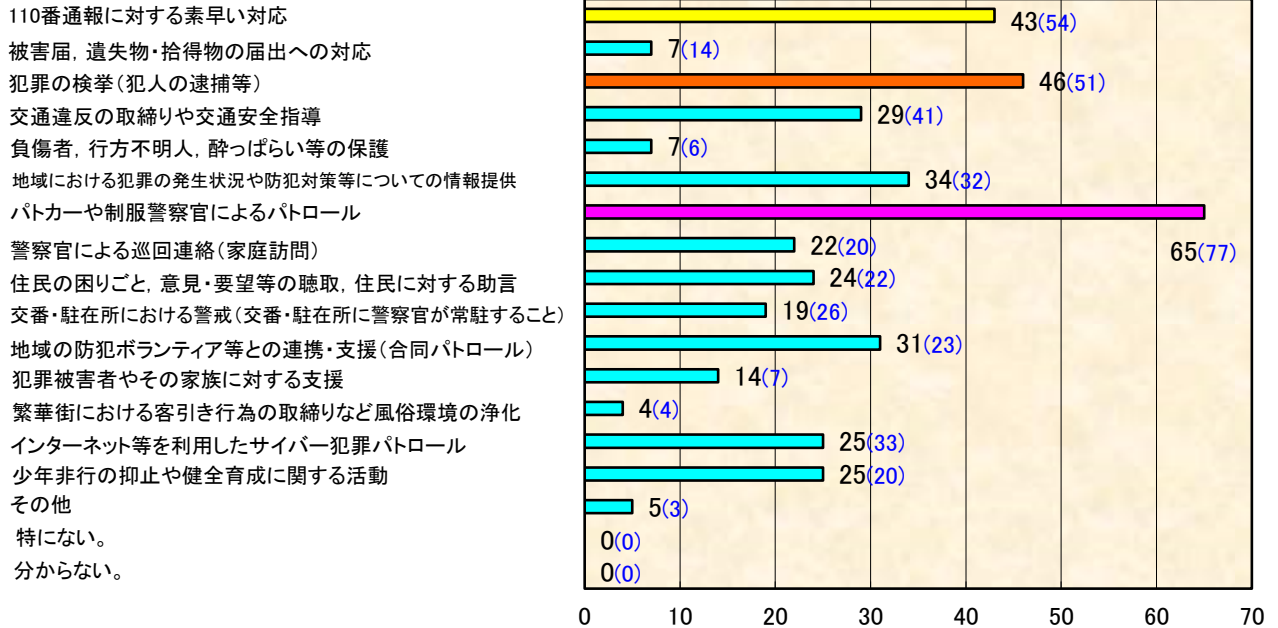
問17 あなたが、交通事故抑止対策として、警察に力を入れてもらいたいことは何ですか。  
(三つまで回答可)



交通事故抑止対策として、警察に力を入れてもらいたいことは、「高齢者等に対する交通安全教育の推進」が最も多く、次いで、「交通需要に見合った道路交通環境の整備」，「交通死亡事故発生場所等交通危険箇所の情報提供」の順に多い。

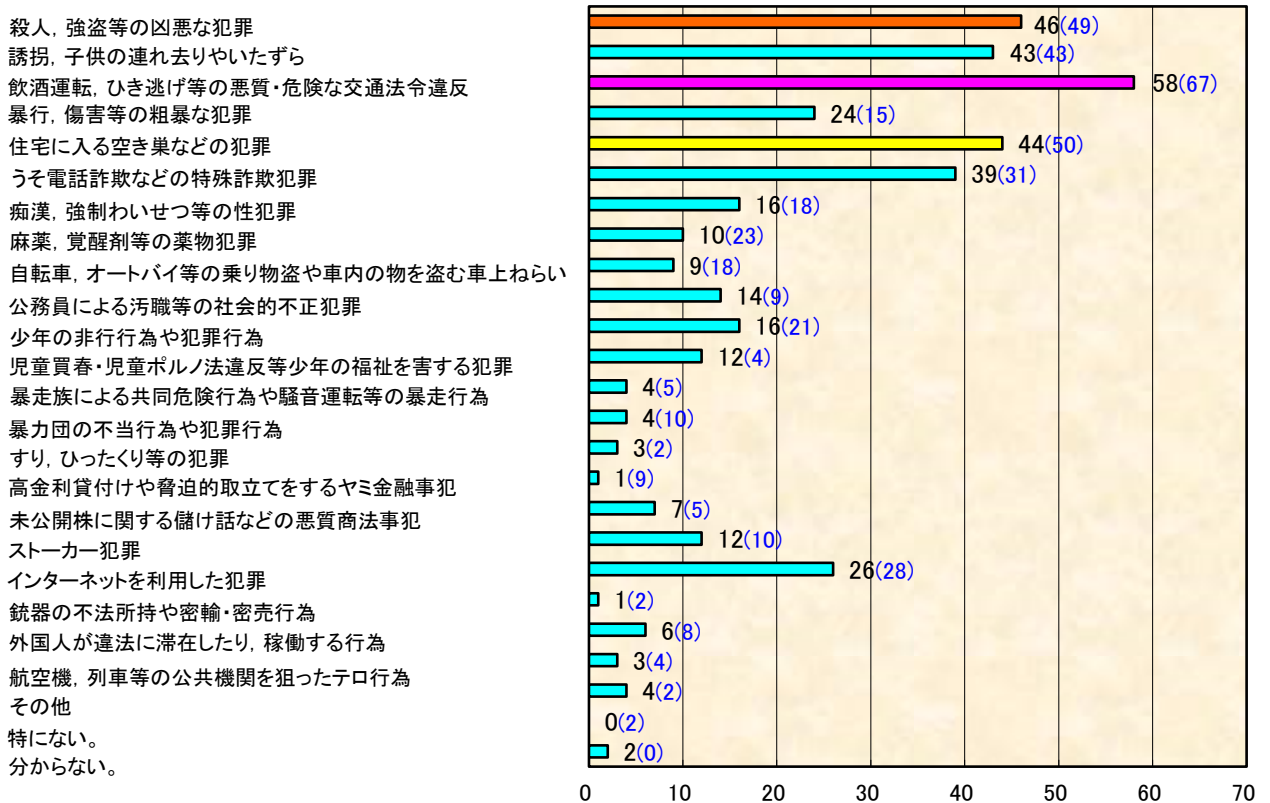
## 7 警察に対する要望について

問18 あなたは、警察に特に力を入れてほしい活動として、どのようなものを望みますか。  
(三つまで回答可)



警察に特に力を入れてほしい活動として望んでいることは、「パトカーや制服警察官によるパトロール」という回答が最も多く、次いで、「犯罪の検挙(犯人の逮捕等)」という回答が多い。

問19 あなたが、警察に特に力を入れて取り締まってほしいと思う犯罪は何ですか。  
(三つまで回答可)



警察に特に力を入れて取り締まってほしい犯罪については、「飲酒運転、ひき逃げ等の悪質・危険な交通法令違反」が最も多く、次に「殺人、強盗等の凶悪な犯罪」、「住宅に入る空き巣などの犯罪」が多い。